

第7回 一般廃棄物処理基本計画等策定委員会 議事要旨

開催日：令和7年2月19日（水）14：00～15：30

場所：蕨戸田衛生センター組合 2階 研修室

出席者：

委員：（学識経験者） 長森委員長

（市民代表） 植田副委員長、鴨下副委員長、荒井委員、大熊委員

（事業者） 溝上委員、鈴木委員、磯口委員、斎藤委員

（蕨市、戸田市及び組合職員） 小柴委員、香林委員、渡辺委員

事務局：（蕨市） 加藤安全安心課長

（戸田市） 細井環境経済部次長

（蕨戸田衛生センター組合）

山本次長、木村総務課長、上嶋施設課長、甲斐総務課長補佐

高津戸経理係長

関係者：（株式会社エイト日本技術開発）王、渡邊、山崎

配布資料：

資料 1：パブリックコメント結果

資料 2：一般廃棄物処理基本計画

資料 3：一般廃棄物処理基本計画 変更箇所一覧

資料 4：一般廃棄物処理基本計画（概要版）

蕨市・戸田市・蕨戸田衛生センター組合一般廃棄物処理基本計画について（答申）

一般廃棄物処理基本計画等策定委員会 答申書手交式 次第

1. 開会

2. 議題

（1）パブリックコメントの結果について

- ・事務局より、資料1「パブリックコメント結果」の説明。
- ・蕨市、戸田市が実施している施策を、市民に向けてもっとアピールするべきだと感じた。（委員長）
- ・ごみ出し困難世帯への対応など、いくつかの施策の実施是非の判断年度が令和12年度とだいぶ先となっているが、それまでの期間はどのように検討を進めていくのか。（委員）
 - 早期に判断ができた場合には随時対応していく予定であるが、他の施策との兼ね合いも考慮し、優先順位をつけながら実施していく予定である。本計画においては、中間目標年度である令和12年度を判断の目標時期として設定した。（事務局）
 - 他の施策も含めて、検討の進捗状況を公表する予定はあるか。（委員）

→ 毎年度作成、公表する一般廃棄物処理実施計画において進捗状況を評価する。スケジュール通りに進められるよう、進捗管理をしていく。(事務局)

(2) 一般廃棄物処理基本計画について

- ・事務局より、資料4「一般廃棄物処理基本計画（概要版）」の説明。
- ・これからの人口の推計について、令和4（2022）年度と比較していつ時点で約11,000人増加するのか、明記した方がよい。(委員)
 - 比較年度は計画目標年度である令和16（2034）年度である。体裁との兼ね合いも含めて検討する。【(後日記) 一般廃棄物処理基本計画の本編、概要版ともに比較年度を明記した。】(事務局)
- ・他自治体でゴミ組成調査に立ち合いをした際、食品ロスの他にも紙ゴミが多く、可燃ゴミに含まれる資源物の推進を強化していく必要があると感じた。
また、最近起きた八潮市の下水道管の破損による下水道の使用制限を受けて、インフラのありがたみを実感し、生活排水処理基本計画を含む本計画の重要性を感じた。(委員長)
- ・事務局より、資料2「一般廃棄物処理基本計画」及び資料3「一般廃棄物処理基本計画 変更箇所一覧」の説明。
- ・資料3については、事前にお送りした資料2「一般廃棄物処理基本計画」には反映できていない変更内容も記載している。委員会終了後も、2月中に委員の皆様からご意見をいただければ、検討したうえで計画に反映する予定である。(事務局)
- ・一部誤記については修正する。(事務局)
- ・「二次電池」という文言を「充電式電池」に統一した理由はあるか。(委員長)
 - 専門家や行政にとっては使い捨て電池を「一次電池」、充電式電池を「二次電池」と呼称することに馴染みがあるが、市民には分かりにくいと考えたため、文字から意味が捉えやすい「充電式電池」に統一した。(事務局)
- ・「もえないゴミ」と「もやさないゴミ」など、将来的に蕨市と戸田市で分別区分の名称の統一をしたほうが分かりやすいのではないか。(委員)
 - 蕨戸田衛生センターの搬入物については、処理の観点から、両市で統一を図ってきた。分別区分の名称については、過去に統一について検討をしたことはあるが、両市民の名称への馴染み度合いや分別のしやすさを考慮し、現在の分別区分の名称としている。(事務局)

(3) 答申について

- ・委員長が蕨戸田衛生センター組合管理者に一般廃棄物処理基本計画についての答申を行った。

3. 閉会